

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区名	浪速
学校名	木津中学校
学校長名	竹村弘文

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学）
 - ・主として「知識」に関する問題（A問題）
 - ・主として「活用」に関する問題（B問題）

- (2) 質問紙調査

- ・生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の中学校第3学年の原則として全生徒
- ・木津中学校では、第3学年43名

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

※教科に関する調査

国語Aで8%、国語Bで7%全国平均を下回る結果となった。数学もAで10%、Bは9%全国平均を下回る結果となった。昨年度より全国平均との差で開く結果となった。平均無解答率は、国語で3～6%、数学で10～18%で、全校平均より少し高い結果となった。

※質問紙に関する調査

規範意識、学習習慣は昨年度同様に今年度も高く全国平均を上回っている。自尊感情は、昨年度は全国平均を下回っていたが今年度は全国平均と同程度である。生活習慣は昨年度同様今年度も全国平均より低く課題となっている。

※調査対象人数が、少ないため、単純に、全国・大阪市の平均や昨年度調査との比較等でその傾向を分析することは難しい部分もあると思われる。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

Aの正答率は、昨年は大阪市と同程度であったが、今年度は8%低く、書くこと・読むこと・話すこと・聞く事の全てにおいて、全国と大阪市平均を下回った。書くこと、記述式の無回答率も全国より10%高い結果となった。Bについては、読むこと・書くことともに低く、記述式問題の正答率が低い。一方、適切な語句を選択する設問の正答率は全国平均より8%高い結果となっている。国語の勉強は大切・将来役に立つと考える生徒の割合は全国平均より高いが、自分の考えを書く・最後まで書く努力をする点では全国平均より低く課題である。

〔数学〕

A・Bともに正答率は、全国より10%程度低い結果であった。Aでは関数、Bでは図形の正答率がかなり低く課題となっている。Bでは短答式問題の正答率は全国平均とあまりかわらないが、記述式問題の正答率は全国平均より10%下回っている。A・Bともに二極化の傾向もみられ、基礎的・基本的な知識・技能の定着が課題である。一方、数学が好きな生徒の割合は全国平均を大きく上回り、数学への関心の高さが伺われる。

※ 現在実施している、習熟度別少人数授業の充実や、放課後学習会や補充授業等による言語力育成のためのきめ細かな指導の継続が必要である。

質問紙調査より

「先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところについてわかるまで教えてくれるか」に対する肯定的な回答は全国平均に比べてかなり高い。「学校に行くのが楽しいと思うか」「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思うか」の肯定的回答も全国平均より高い。「読書が好きですか」に対する肯定的な回答は昨年に比べ今年度はかなり増加した。言語力や論理的思考力の育成がはかられていると考えられる。また、規範意識は高く、本校は学習規律の維持を徹底しており、それが生徒の規範意識の向上と遵守につながっている。一方、1日当たりのTVゲーム(含PC・携帯・スマホ)の利用が全国平均よりかなり高く、「学校の授業時間以外や学校が休みの日に1日どれくらいの時間勉強しますか」の割合は低く、家庭での勉強時間の増加・家庭学習習慣の定着が課題である。

各教科の平均正答率と、質問紙の回答の相関関係については、調査対象人数が少人数のため必ずしも一致しない。

今後の取組

本校では、これまで習熟度別少人数授業をはじめ、補充学習・放課後学習会・中3集中学習会や個別学習指導等、個々の状況に応じたきめ細かい指導を継続してきている。学力向上に向けた大阪市取組施策と関連し、スクールエンパワメント推進事業を展開するとともに、元気アップ推進事業と連携して漢字検定を実施し、そのための補習も数回実施した。国語A・Bともに「書くこと」の領域において正答率が全国平均を下回っていることから今後も継続して実施していきたい。数学についてはA・Bともに「関数」の領域で正答率が低い。B問題では無回答率が高いことから、短答式・記述式問題の取り組みに力を入れる必要がある。

「読書が好き」な割合が増えたことは、学校図書館補助員事業を活用して読書活動の定着と図書館利用の活性化を図った成果と考えられる。電子黒板やタブレット端末等ICT機器を活用した授業を含め指導方法の工夫を進めていく。規範意識や自尊感情については、今後も学校行事や特別活動等の取り組みを通して、生徒が充実した学校生活が送れるようにし、肯定的回答の割合が高い状況を維持する。基本的生活習慣や家庭学習の定着に向けては引き続き小学校や家庭と協力し取り組んでいく。

【 全体の概要 】

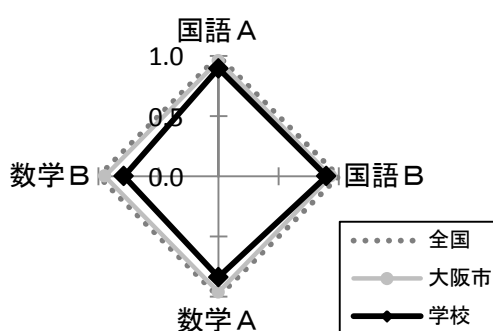
平均正答率（％）

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	67.7	59.7	52.2	34.7
大阪市	72.5	62.1	60.0	41.7
全国	75.6	66.5	62.2	44.1

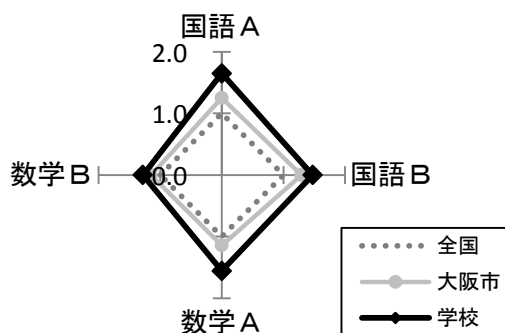
平均無解答率（％）

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	3.3	6.5	9.8	18.8
大阪市	2.5	5.7	7.2	16.9
全国	2.0	4.4	6.3	14.7

平均正答率（対全国比）



平均無解答率（対全国比）



【 国 語 】

A 問題

平均正答率(%)

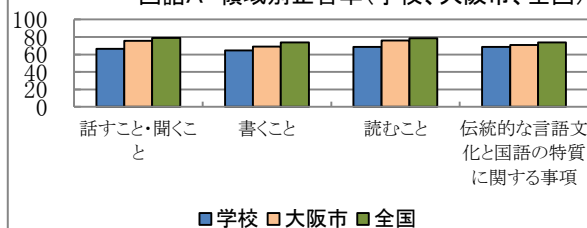
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	66.3	75.7	78.9
	書くこと	64.5	69.1	73.7
	読むこと	68.6	76.0	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.7	71.0	73.9

B 問題

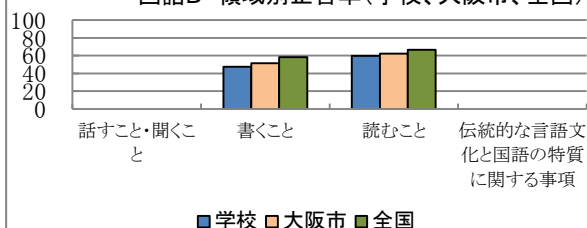
平均正答率(%)

		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	—	—	—
	書くこと	47.3	51.3	58.3
	読むこと	59.7	62.1	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—

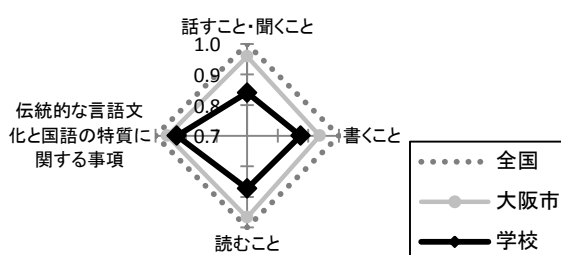
国語A 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



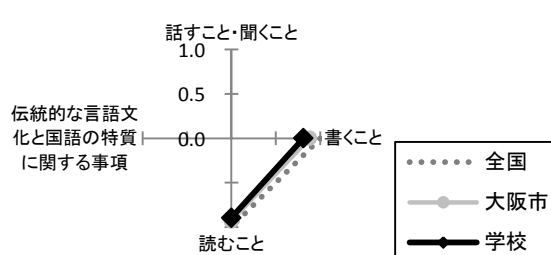
国語B 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語A 領域別正答率(対全国比)



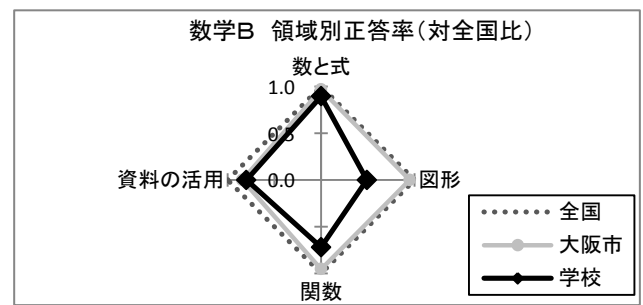
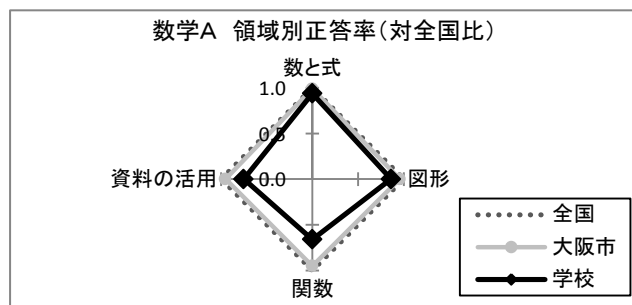
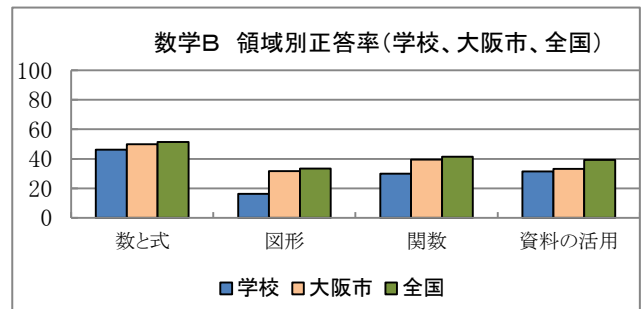
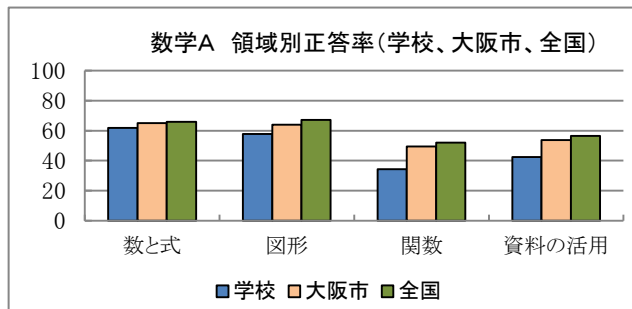
国語B 領域別正答率(対全国比)



【 数 学 】

A 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と式	12	61.8	65.1	65.9
	図形	12	57.8	64.1	67.1
	関数	8	34.3	49.4	52.0
	資料の活用	4	42.4	53.7	56.5

B 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と式	6	46.1	49.8	51.5
	図形	2	16.3	31.6	33.3
	関数	5	29.8	39.5	41.4
	資料の活用	2	31.4	33.1	39.3



生徒質問紙より

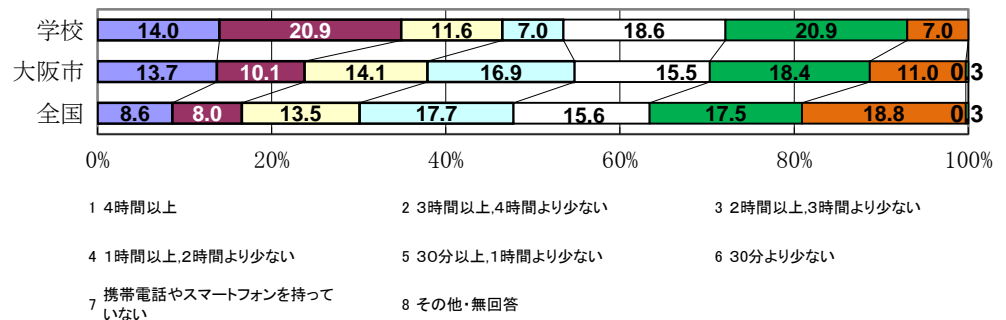
1 2 3 4 5 6 7 8 9

質問番号

質問事項

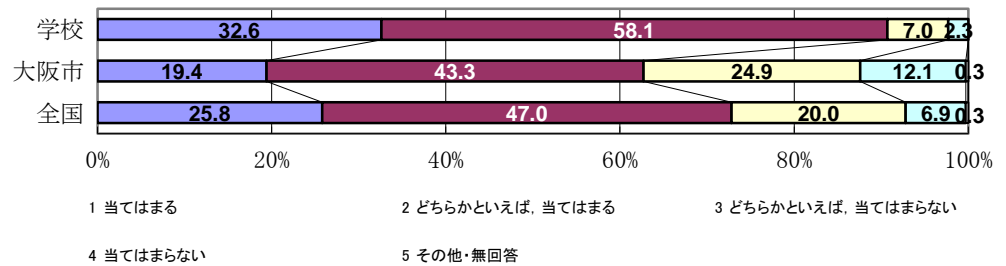
13

普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)



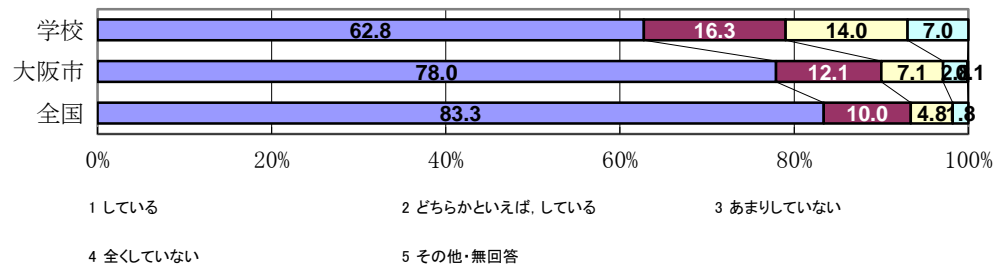
45

「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか



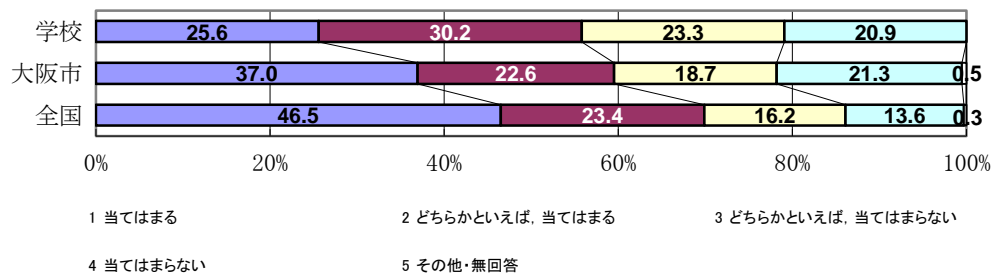
1

朝食を毎日食べていますか



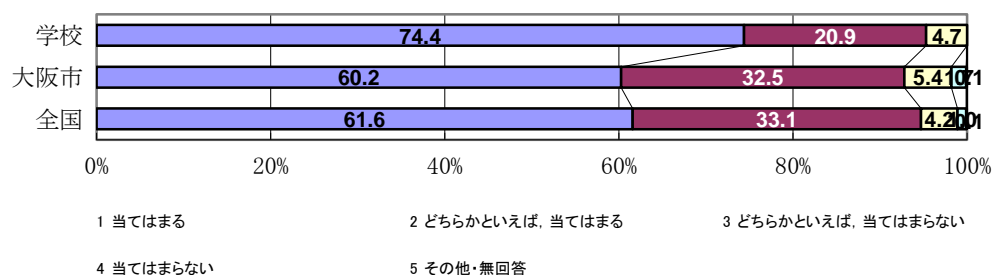
64

読書は好きですか



39

学校の規則を守っていますか



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

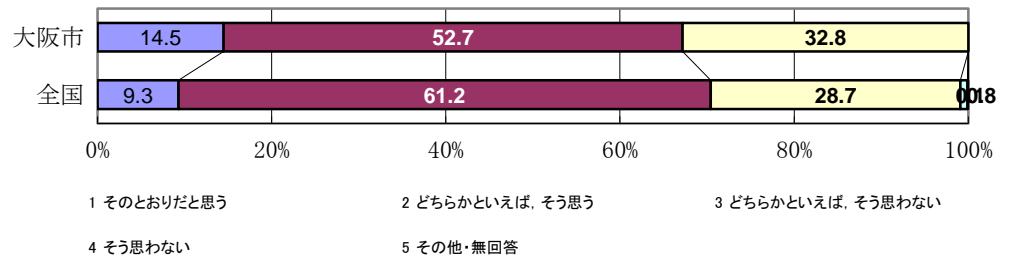
質問番号

質問事項

19

調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

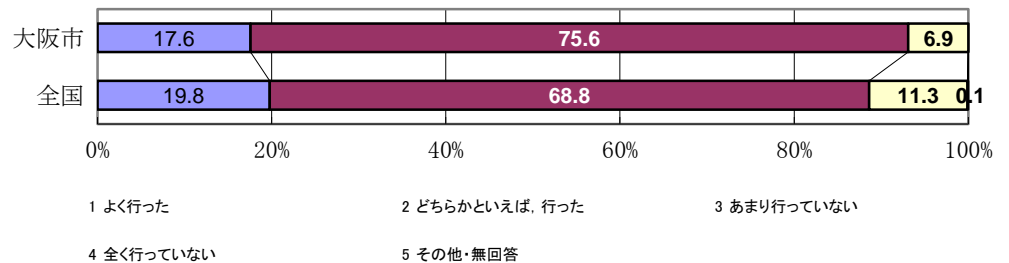
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



35

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか

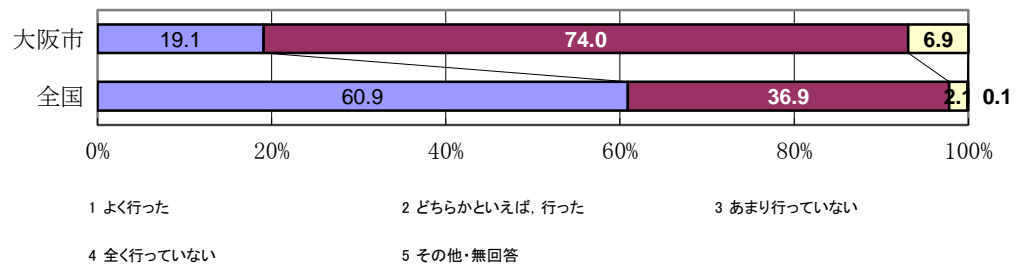
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



36

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業の中で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れられましたか

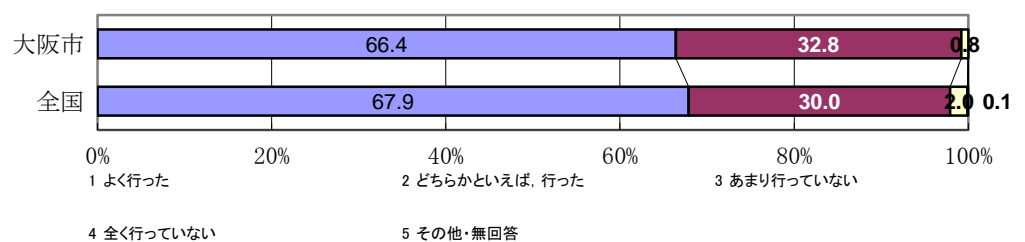
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



51

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか

学校 「よく行った」を選択



108

教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択

